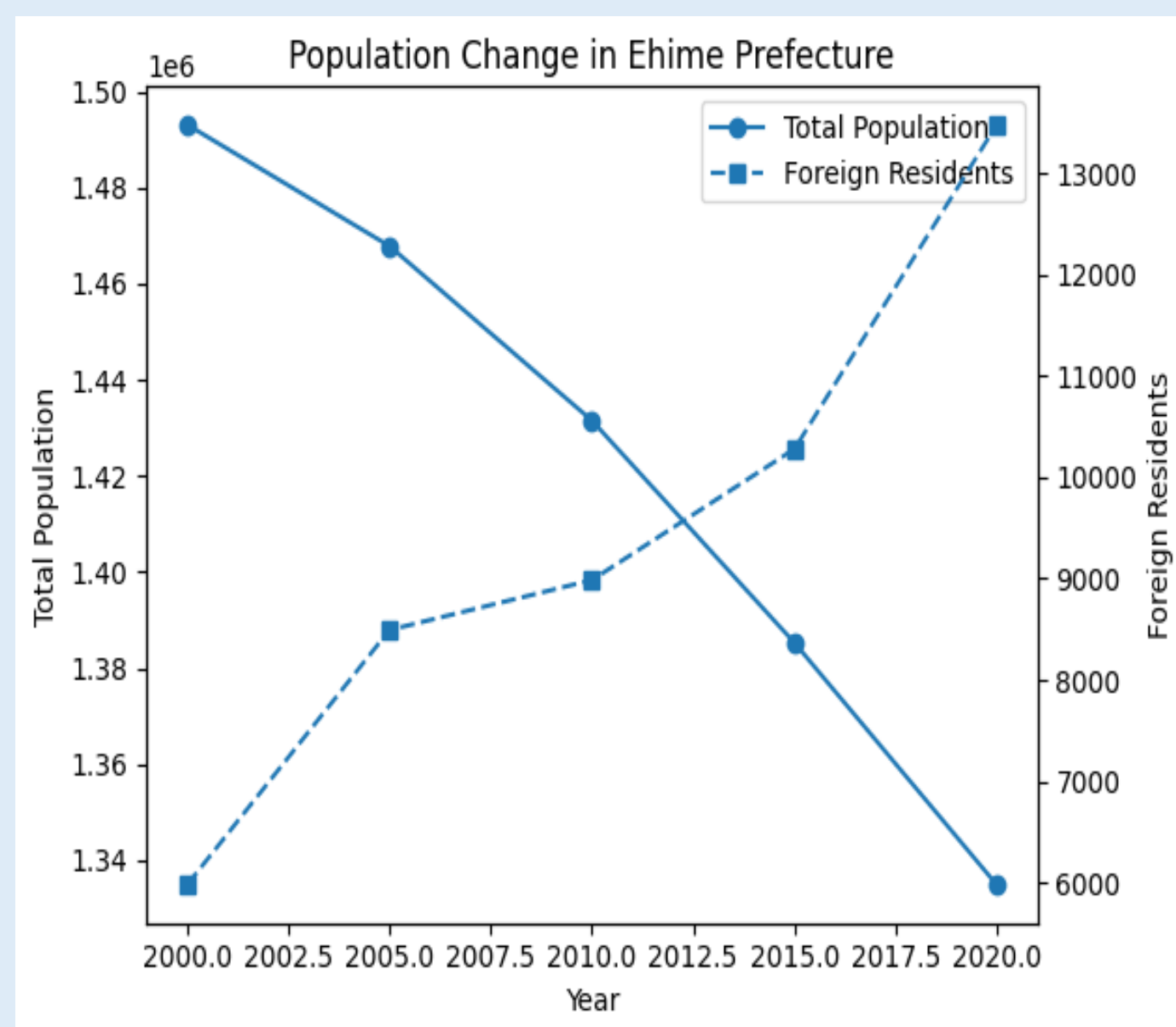


インバウンド需要に対応した地域活性化ビジネスの形成

1,目的・背景

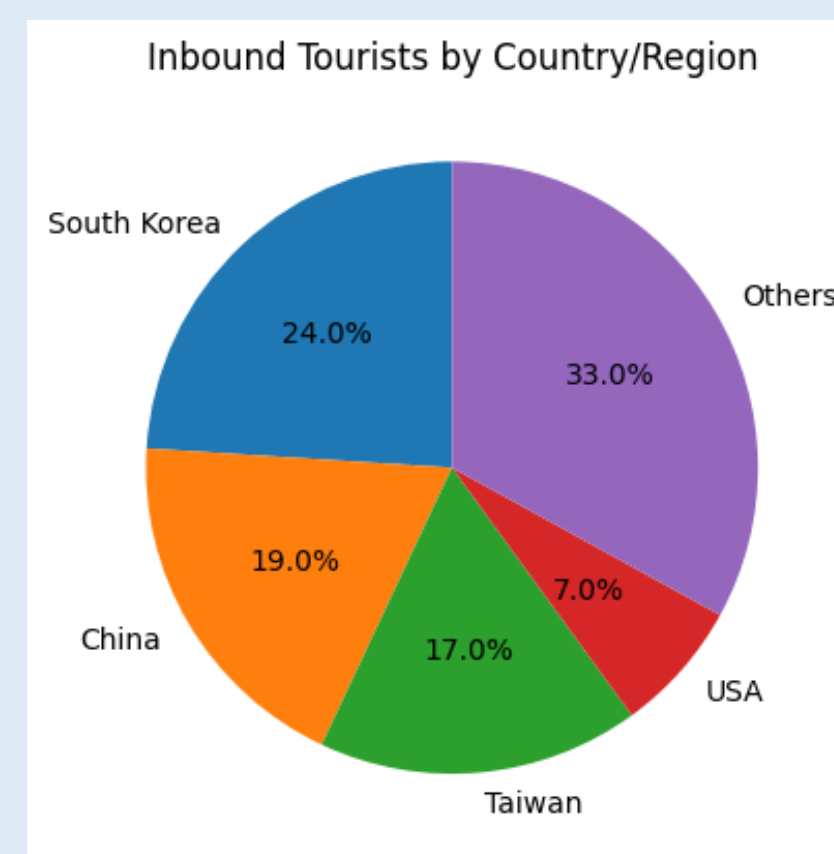
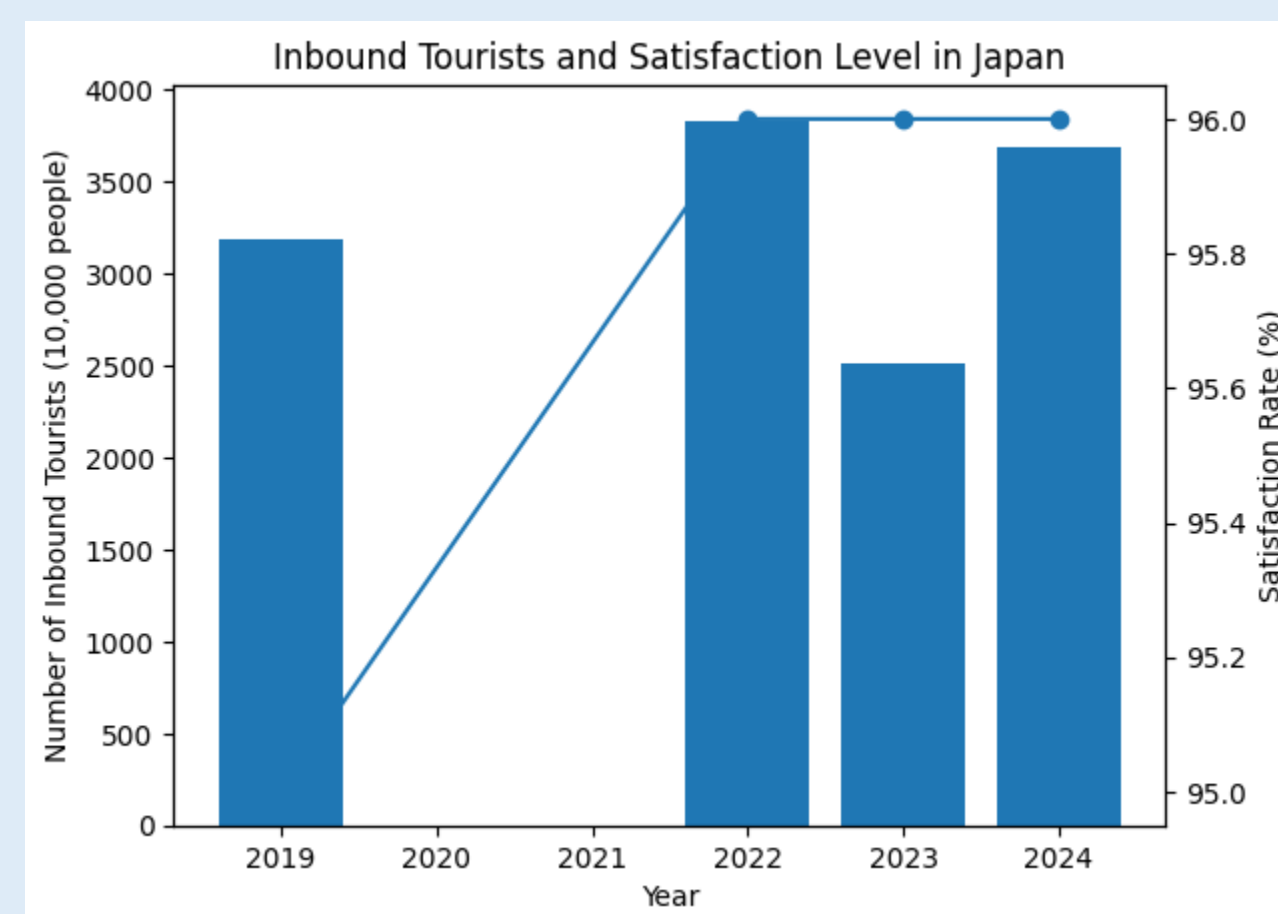
〈愛媛県南予〉

- ・ 少子高齢化・人口減少
- ・ 観光客数も縮小傾向
- ・ 一方で、東南アジアからの訪日客は増（最近は欧米）
→多言語対応した体験型コンテンツが不足



出典:

Statistics Bureau of Japan, *Population Census*.
Ehime Prefecture, *Estimated Population Survey*.
Ehime Prefecture, *Trend of Foreign Residents*.
Japan National Tourism Organization (JNTO);
Japan Tourism Agency, *Survey on Consumption Trends of Foreign Visitors*
Japan National Tourism Organization (JNTO),
Inbound Visitors to Japan by Country/Region
をもとにphytonで作成



2,仮説

「インバウンド需要に対応した、
地域密着型ツアーの作成」

- ・ 「退屈な移動時間」→「体験化」し、満足度を向上させる
- ・ 滞在時間と消費を増やす
- ・ 持続的な地域密着型インバウンドモデルを構築する

班員：岡崎耀星 木口雄賀 白崎大和 末廣咲衣 田中心琴
担当教員：片岡史成

3,研究方法

追加アンケートと地域関係者への聞き取り、台湾人旅行者へのフォローアップ調査を行い、得られたデータを比較分析する。
→ニーズを精緻化

↓
移動時間を観光体験として成立させるための
体験要素を抽出する

↓
分析したニーズに合う日本側の人を探す
日本側の受け入れ態勢を整える(地元の人、企業と連携)

↓
外国人（ALTなど）とエラー&トライ

↓
実際に外国人ツアーを実施し仮説の検証を行う

- ・ 外国人を集める
- ・ 分析したニーズをもとに「コト」の消費を重視するツアー計画を立てる
- ・ 私たち高校生を主体とし、地元と連携してツアーを実施

↓
試行錯誤し検証を繰り返す

↓
インバウンドに対応したビジネスの実現
(再現性や希少性があるかどうか)

↓
地域活性化（観光業の復興に伴って経済も回復）

外国人は、ゲストハウスや宇和島市の事業を利用して集める予定
また、英語や日本人が少しでも話せる方をターゲットとする
(大学生との協力や翻訳アプリの使用も検討中)